

第 19 回 茅ヶ崎海岸侵食対策協議会

◇ 開催概要

日時：令和 5 年 3 月 18 日 16:00～19:00

場所：藤沢土木事務所汐見台庁舎 1 階会議室

出席者：委員 15 名、事務局 12 名、傍聴者 3 名

◇ 議事概要

1. 開会

協議会の規約改定について報告した。(資料 1)

2. 第 16～18 回協議会の概要 (資料 2)

コロナ渦の書面開催となった第 16～18 回協議会の内容を確認した。

3. 茅ヶ崎海岸の養浜事業の評価 (資料 3)

- ・ 2006 年 1 月～2022 年 3 月までに養浜を実施

柳島地区：10.5 万 m³ 中海岸地区：50.1 万 m³ 菱沼地区：11.6 万 m³

- ・ 中海岸地区では、計画浜幅まで達成しつつある。海岸中央部 (No. 18) の浜幅 B' (自転車道法肩～汀線) は、2023 年 2 月では B'=42.7m であり、計画の 50m に対してたりていないが、沖合の堆砂により波のうちあげ高は防護水準を満足する。

- ・ 中海岸におけるこれまでの養浜事業は、砂浜の復元、海岸保全という目的を確実に果たしつつあり、防護だけでなく環境の保全、利用にも良い効果を発揮していると評価できる。

- ・ 菱沼海岸地区での計画的な海岸保全対策の実施が求められる。

4. 茅ヶ崎養浜環境影響調査結果報告 (資料 4)

- ・ SS と透明度には、負の相関関係が認められる (0.58、 $p<0.01$)。

- ・ 全測点で細砂が主体。水深 5 m 以浅 (St.1、A、E) の測点は中粗砂の割合が高い。

- ・ St.I は調査毎に細砂と中粗砂の割合が大きく変わる。今後注視する必要あり。

- ・ 中海岸では水深 5 m で中粗砂、水深 9 m では粘土シルトの割合が高い傾向があり、経年でみても変化が少ない。

- ・ 一方、白浜町では、水深 5 m と 15m で中粗砂と礫分の割合がやや高く、特に近年の水深 15m では、調査毎に細砂と中粗砂の割合が大きく変わっている。

- ・ 底生生物について、種類、個体数は、昨年度調査に比べてやや多い。

- ・ 合成指標は、正常な底質と評価。

- ・ 白浜町・浜須賀エリアの 5 測点を ROV で撮影した。

5. 今後の海岸保全事業の進め方 (資料 5)

- ・ 令和 5 年度養浜予定

柳島地区：5,000m³、中海岸地区：15,000m³の維持養浜、菱沼地区：30,000m³としているが、今後

の養浜方法を改良。

- ・養浜事業について、引き続き、海浜の安定性と防護機能のモニタリング調査を実施し、十分注意して進める。

6. その他

近藤会長の退任に伴い、本協議会の規約を令和5年4月1日付けで改定することが、承認された。

以下抜粋。

「2. 会長は日本大学小林昭男特任教授とする。」

7. 閉会

◇ 委員意見概要

主な委員意見を整理した。(・意見、⇒意見に対する回答など)

- 書面開催が続き、3年間何も言えなかったこともあると思われるので、順番に何らか形でのご意見をお願いします。【近藤会長】
- サザンビーチの場合は、養浜なんかの対象になってないみたいですが、もうちょっとここも、うちのほうとしては砂浜がちょっと薄くなっているという感じがする。その他のことに関しては、専門的な部分が多く何とも言えないが、サザンビーチもちょっと見ていただきたいなと思っている。
【五十嵐委員】
⇒ 先ほどの養浜の説明では、一般の人にはわからないので、補足します。【宇多副会長】
- 茅ヶ崎中海岸への養浜は昔の自然海浜へ戻すことにやってきたが、戻ったかのどうかの部分が抜けており、養浜そのものが一般の人には分かりづらい。海浜利用のしにくい浜がけをつくっているだけの印象を受ける。
単に土砂を投入しているのではなく、土砂を投入する範囲を決めて、土砂を投入していない箇所
の海浜も戻そうとしているとの説明が抜けている。そこを説明しないと一般の人にはわかってもら
えない。菱沼海岸の養浜についても、砂が足りないから養浜すればよいではなく、やり方に工夫が
必要である。
サンドエンジンという言葉がでたが、オランダでは1億立方メートルの砂を沖から噴き上げて、極
力人の触るところを狭くして波の作用によって、自然海岸に近づけるものである。【宇多副会長】
⇒ 長年、協議会をやってきて、「昔の自然海浜へ戻す」といったコンセプトを忘れていたのではな
いかとのご指摘でした。事務局を含め再度、認識を共有すべきである。【近藤会長】
- 去年からこのサンドエンジンをヘッドランドで試していたのかもしれないが、3メートルの土砂
が波で崩れて少しずつならされているのは見ている。砂浜が減った場合に台風が来るとサイクリン
グロードがやられてしまう一番の原因になっている。仕事をやる中でもとても盛土は邪魔くさいも
のであって、安全が管理できないという相談したこともあります。災害の起きたときにそれが役に
立つことも理解している。一方、飛散してきたパウダーサンドがたまる場所に漁港の西側と僕らの
ところになっている。少しずつ浜が回復しているのはわかるが、本当に崖になって、無線が遮られ
ちゃうぐらいの高さにもなるが、自然相手でありすぐに改善できることでないので見守っている。
【小川委員】
- 釣り船、毎日船を出しているなので、率直に仕事柄のほうからので意見を言わせていただきたいの
ですが、中海岸は昔に戻っていったというのはわかる。その分、港が浅くなっていった、港の
出入りに危険がますます高まっています。できればあまりもう中海岸のほうまでの砂は盛っていた
だかないのが希望としてある。東海岸、菱沼海岸のほうに砂を持っていくようにしていただいて、
港の周りにはもうあまりやっていただきたくないと思っております。【米山委員】

⇒ 漁港の入り口のほうに砂がたまるという問題もあると思います。海浜も随分侵食されてきたので、何とかしようと継続的に、十何年も砂浜を守っているのは、神奈川県だけです。ほかではもう全く手をつけない。そういう意味で貴重な社会実験だと思います。

その中でいろいろと苦情もいろいろとあると思います。でも、これはやはりお互い話し合っ、それらを解決しないとイケない。砂浜でどうするのというコンセプトで、年々いろんな問題が出てきて、それを少しずつ解決しながらやってきた。この委員会でも、もう一度みんなでディスカッションする機会にいただければと思います。【近藤会長】

⇒ それは、さっきお話があったサザンビーチは海水浴場として、維持するのに細砂がある程度の量の必要となる一方で、サザンビーチがなくなって良いなら、茅ヶ崎漁港の入り口に砂がたまらなくてできます。ところが、実際、サザンビーチは海水浴場して砂ないとまずく、漁港のほうは砂がたまらないことがいいことだと、相互に矛盾している。

どこか1つ改善すればいいって話にならない。海浜全体の砂が動き回っているから、なかなか難しい。どこかでやっぱり妥協するしか道がないと思います。【宇多副会長】

⇒ それはお互いにそれぞれの役割分担って、また時系列でいろいろと考えていかないとイケない課題だと思います。【近藤会長】

- 私はあの場所で地引きをやっています。第1回から皆さんと一緒にお話をさせていただいて、最初は、サイクリング道路までもう波が来ちゃって、私も廃業しようと思っていた。昔、自分が子供のうちにそこで遊んでいたような砂浜になってほしいけど、今の段階ではそれを望む前に、サイクリング道路から134号線の保全を目的とした防災を優先しつつ、昔みたいに、白砂青松でなないが、そういうような砂浜に戻していけたら一番よい。【重田委員】
- 入れている砂に対して、よく濁りが出ますよね、波が来ると。それに対しての影響というのはあるのですか。【真間委員】

⇒ その濁りがずっと続くようであれば、光が遮蔽されたりするので、その藻類とかが枯れたりというのはあります。一時荒れたときに砂が持たれてという…しけが来たときに収まるのであれば、それほどではない。過去に、もう10年以上前に酒匂川が台風でやられたときに、あのときはもう1年以上濁りが続いたのがあって、あぁなってくるとやっぱりイソメとかに影響が出てくるが、単発的な濁りであればそれほどではない。【蓑宮委員】
- 資料3の5ページをちょっと開いてもらいたい。私のこの持論ですけれども、ヘッドランドから港周りには砂がついているのがよく分かります。当初は、ここにミニヘッドランドが造られる計画で大賛成だった。ミニヘッドランドもテトラを使うと美観的に芳しくないということで、海底に扇形に埋没するという案だった。千葉に見学に行ったこと覚えています。千葉は大体500メートル間隔でこのヘッドランドは造られている。延々と砂を投入しても、必ず大きな台風とか、特に東から来る台風来れば、同じようにまた崖が生まれるということです。だからどこかでもう一回最初に戻って、この計画の目的って砂浜を広げるってことです。美観を損ねないで、溺れた人が、よじ登

れる安全な、ヒトデ型でなくても、今は長方形のブロックと、いろんな形が護岸であります。そういうことを加味しながら、いろんなことをやってみる可能性があると思う。【鈴木委員】

⇒ やはり、いろいろと実験も計算もした結果、ヘッドランド工法というのは、やはり砂が集まっていたり、侵食される量、その極端な結果だということで、それは取りやめになった。【近藤会長】

⇒ それは人工リーフって言って、日本全国であっちもこっちもやって、ことごとく失敗しています。ここの海岸は、元の砂が、相模川から来ないようになったというのが最大の問題ですから、それに匹敵する砂を入れるしかない。ただ、やたらに入れると崖ぼっかりつくってしまうので、どこか集中的に砂入れて、そこにきつい波が来たときゆったりと砂が流れるように。つまり、相模川がこっちへ移ってきた。茅ヶ崎漁港の隣に来たというふうな雰囲気にしてやればいい。あるいは菱沼の、ヘッドランドの東側に、砂が入るというふうにしてやれば原理上はできる。【宇多副会長】

- この茅ヶ崎海岸の3キロぐらい沖合に海底溪谷があり、700メートルぐらい落ちているというようなことを何かで聞いた。そうすると砂をいくら入れて、お金をいくらかけても、大きな台風なんかで砂はみんな持ってかれてしまう。無駄になってしまうのではないか。【鈴木委員】

⇒ 話がこんがらがっています。沖に落ちこちるのは西湘海岸です。ここの海岸では絶対に落ちません。【宇多副会長】

- 当初、あのサイクリング道路まで砂浜なくなったけど、今40メートルまで復活して、このコロナ禍でも季節を問わず、皆さんが日光浴で使っていらっしゃる様子を見ているので、本当にうれしく思っています。盛土のことですが、工事現場のような砂の積み方で自然の中にスクエアのような土砂があるのは、どうしてもいただけない。何か自然感に見えるように崩してもらうことはできないかというふうに感想を常々思っています。オーストラリアで沖合の砂を浚渫して噴き出すサンドレインボーというのがあるが、すごくうまくいっていると聞いているので、そういった新工法で、沖合にある砂を直接船で浚渫して噴き出してもらい、なおかつその生態系に影響がないのであれば、ぜひ検討して進めてもらいたい。茅ヶ崎海岸全体見たらすごく常々残念だなと思っている場所がある。柳島の人工リーフって言われている消波堤です。あれが全然利用面としてはサーフィンも、それからちょっと波浪があるだけでも釣りもできないし、僕があの辺に住んでいたときには砂丘のように広い砂浜があった。それを復活させるようなこともこの協議会の中で検討していただけるように、拡張した形で全体を見据えてほしい。【伏見委員】

⇒ 外国での養浜というのは、全然桁が違う1年間に1,000万立方メートルの砂を噴き上げて養浜している。日本では、いろんな制約がきつくてできない。柳島はもう駄目だから切り捨てようというのではなく、柳島は昔はいいとこだったから柳島全部というのは無理だけど、技術的には、ある場所は今の状態よりよくすることはできるが、コンセンサスが得られるかということになる。【宇多副会長】

- 養浜の盛土による段差の影響でビーチクリーン車両が通行できない箇所がある。車が通行できるようにご配慮いただきたい。【松浦委員】

- 白浜のほうにも砂を入れていただいて、いいなと思う部分と、なかなか自然相手ですから、計画どおりにいかないという部分も非常にあって仕方のないと思っている。自治会にも非常に新しい住民が多くて、サーフィンをやるとか、いろんな方が海に憧れて移住してきています。その中でこの養浜が行われて、なかなかどういうふうになんか進んでいるかというのが地元の住民が分からないという部分がある。柳島地区に道志ダムから搬入した土砂搬入しているとあるが、この土砂というのはダムの土砂だとまた少し汚れていると想像してしまう。【岡崎委員】
 - ⇒ 柳島の道志ダムの土砂は、粒径等の分析をした結果、シルト分等も当然多くないものを、10%未満ということでやっております。あと、このほかのゴミとかとも十分注意しているものです。汚いというか、そういったものではないと判断しております。【事務局】

- 白浜に関しては、ダムの土砂ではなくて、市内の砂を持ってきてほしい【岡崎委員】
 - ⇒ 菱沼海岸と白浜町の砂につきましては、茅ヶ崎漁港の西側に堆積した砂と、辻堂東海岸のほうの海岸にたまっている砂を使っております。ダムの砂ではございません。【事務局】

 - ⇒ 茅ヶ崎中海岸で土砂を入れているが、それは海に一旦落ちて、ゆっくりと東のほうへ移動、冬場の南西の風で、陸に上がって自転車道を埋めています。その自転車道を埋めている砂というのは障害物ですから、取ってやらないと自転車通れず、そういう場所がいっぱいあるので、もうちょっときめ細かく、この砂も使い、菱沼海岸へ持ってくるなどしても良い。人様が土砂入れると必ず崖ができるから、侵食されているところに、もろに投入するのではなく、ちょっと上手のほうに入れて、そこから砂がゆっくりと流れるようにして、前浜が保てるようにしてやらないと駄目で、滑らかな砂浜に誘導していくようにして、どうしても浜がけできちゃう場所があるので、その辺は工夫していくしか方法ない。【宇多副会長】

- この協議会に柳島の自治会員も参加させるべき。【横溝委員】

- ROV の撮影場所のリクエストがあれば連絡いただきたい。【蓑宮委員】

- 茅ヶ崎中海岸は経験が無いなか進めてきた事業であった。菱沼海岸は中海岸の実績を踏まえて事業を進めている。今後は海岸の景観を鑑みつつ、サンドエンジンなどの工夫を凝らしていきたい。【田村委員】

- 中海岸では養浜の効果が出てきたので盛土の天端高を T.P. 6m から T.P. 4m に下げて、利用面に向けて養浜事業を進めていく。菱沼海岸では事業が開始したばかりで、引き続き養浜を進めていく。養浜方法についてはヘッドランドへの砂の投入、サイクリングロードの飛砂などについて地元住

民と意見を交換しながら引き続き進めていきたい。【佐野委員】

- 地元の住民のご理解が重要である。今までは海岸管理のあり方についてシンポジウムを実施した。来年度以降に海岸管理の勉強会や講演会をしていくべき。発表者は専門家ではなく、委員の皆さんにお話し頂きたい。そのあとに事務局や専門家の意見を交換するのがいいのではないか。【近藤会長】
- 今後はこのような話し合いの場を年に2、3回開催する予定はあるのか。【岡崎委員】
⇒ 資料は多くなくていい。議論をしていくことがメインとすれば可能なのではないか。【宇多副会長】

以上